



青空の下で古代史を探訪しました

秋田城の門に 古代の歴史開かれる

高清水の丘に復元されたばかりの秋田城跡外郭東門を会場に、五月十日、復元記念シンポジウムが開かれました。

これは、五月二十九日から開催される日本文化デザイン会議'98秋田のプレイベント。話し手は、デザイン会議に出演する編集工学研究所長の松岡正剛氏と建築家の竹山聖氏、それに、東門の復元に携わった秋田県立博物館館長の新野直吉氏、宮大工の菊池恭二氏の四人。進行は小松正夫文化課長です。

白壁と朱塗りの柱に瓦屋根が葺かれた東門と、その両側に巡らされた重厚な築地塀。参加者は門の前に敷かれた畳に座りながら、古代東北の文化や古代人の交流、秋田美人の起源などの話に耳を傾け、太古のロマンに新たな想いを巡らしていました。

竿燈の実演が 観光客に好評です



竿燈の妙技を間近でお楽しみください

大町一丁目のねぶり流し館で土・日曜日と祝日に披露している竿燈の実演が、観光客のみならずに喜ばれています。

「せっかく秋田に来てくれた人たちに竿燈の醍醐味を」と、秋田市竿燈会が行っているもので、午後三時三十分から四十分間ほど妙技を披露。合間には、小若や幼若を持って竿燈を体験できる時間も設けています。

ゴールデンウィークに埼玉県から訪れたみなさんは、「面白い体験ができました。本番はすごい迫力でしょうね。ぜひ見たい」と、楽しそうに話していました。竿燈が見たくなくなった、ぜひ、ねぶり流し館へ。

トラック8台分の ポイ捨てに、あきれ顔

市内で廃棄物の収集運搬業を営む二十二社からなる秋田廃棄物処理協会が、四月二十六日、ポイ捨て清掃ボランティアを行いました。

添川から上新城道川に至る県道沿い約四・五キロで、約四十



ボクといっしょに大きくなるうね

すくすく育て！ 誕生の森に親子で植樹

「マナーの悪さに驚いていました。集めた物の大部分は、ちゃんと処理できるものばかり。ルールを守って資源物や粗大ごみに出してほしい」と、参加者のみなさんは、ポイ捨てや不法投棄のあまりの多さに、半ばあきれ顔。



沿道は集めたごみであふれんばかり

新緑の風が薫る五月七日と八日、「全国花のまちづくり大会」が秋田市で開かれました。花と緑があふれる美しいまちづくりを進めようと、建設省・農林水産省が提唱して全国的運動を展開しているもので、東北・北海道では初めての開催。



羽根の長さは1枚15.5メートル

市街地の真ん中の緑 うらやましいですね

親子が参加し、赤ちゃんの誕生を記念して杉の苗木を植える「誕生の森」記念植樹が行われました。昭和四十三年から始めた記念植樹は今年で三十一回目。これまで三十万本以上が植えられ、最初の苗木は、約十メートルにも成長しています。「子どもの記念に植えた木をきちんと手入れしていただけるのは、うれしいですね。成長が楽しみです」と、参加したお母さん。植えられた杉は約五十年後に伐採され、その収益は将来の福祉事業に役立てられます。



千秋公園ってすてきですね

巨大な風車で クリーンエネルギー

このほど新屋の旧秋田空港跡地の海岸沿いに、巨大なプロペラをつけた高さ三十六メートルの風車二基が目見え。秋田ウインドパワー研究所が設置した風力発電機です。一基で最大四百キロワットの発電が可能で、二基で約八百世帯分の電気を供給できるといいます。発電した電気は東北電力に売電します。同社ではこの二基での試験運転が順調に進めば、さらに風車を増設し、青森県の竜飛岬を上回る国内最大級の風力発電施設に拡大していく計画。クリーンな風力発電に、いま注目です。